

平成28年6月 南魚沼市議会定例会
一般質問順位表

質問順位	議席番号	質問者
1	5	勝 又 貞 夫
2	15	中 沢 一 博
3	4	清 塚 武 敏
4	2	塩 川 裕 紀
5	13	小 澤 実
6	3	田 村 眞 一
7	18	岡 村 雅 夫
8	17	中 沢 俊 一
9	12	塩 谷 寿 雄
10	22	牧 野 晶
11	6	佐 藤 剛
12	16	寺 口 友 彦
13	11	鈴 木 一
14	26	若 井 達 男
15	19	今 井 久 美
16	1	永 井 拓 三
17	7	桑 原 圭 美
18	24	関 常 幸
19	20	腰 越 晃
計		19名

【質問方式】（いずれも質問制限時間（答弁時間を含まない。）は30分）

一括質問一括答弁方式： 全質問項目を一括して行い、答弁も一括して行う。
（初回は登壇して行い、質問回数は3回まで。）

一問一答方式： 質問及び答弁を一問ずつ行う。（ただし初回の質問は、登壇して最初の質問項目のみをまとめて行う。質問回数に制限なし）

複合型一問一答方式： 一問一答方式において、質問大項目の最初の質問はまとめて行い、以降は一問ずつ行う。

質問 順位	質問 内 容
2	1 食品ロス削減に向けての取組推進について
議席	
15	
中 沢 一 博 (一問一答方式)	<p>日本の食品自給率は約4割にとどまる中、一方では、食べられるのに捨てられる食品ロスは、年間約642万トンと推計されており、その削減が喫緊の重要課題である。食品ロス削減は食品事業者・消費者・行政それぞれにメリットがある。過剰生産の抑制による生産・物流コストの削減や廃棄コストの削減、食費の軽減、焼却時のCO₂削減などにつながる。さらに未利用食品の有効利用は、食品ロス削減のみならず生活困窮者等の支援にもなる。</p> <p>そこで、当市の取組について伺う。</p> <p>(1) 学校や保育園などの教育施設における給食の実態と啓発推進について</p> <p>(2) 飲食店等における食品ロス削減について</p> <p>(3) 家庭における食品ロス削減について</p> <p>(4) 未利用食品を必要とする人に届ける仕組みについて</p> <p>(5) 災害に備えた食料の確保について</p> <p>2 魚沼地域における療養病床の計画と実態について</p> <p>魚沼地域の医療再編は方向性が見えたといわれる中、当初の療養病床の計画とかなり実態が違うように見える。</p> <p>高齢化が進む中、当地域における医療・介護連携の確かなる推進を伺う。</p> <p>3 犬猫殺処分ゼロに向けた当市の進捗状況について</p> <p>平成26年9月議会でも同様の質問をした。今、県も補助金を制定し、推進している中で、成果も見えてきた。当市の現状と進捗状況を伺うと共に、犬猫殺処分ゼロ実現に向けた、支援策を伺う。</p>

質問 順位	質問 内 容
4	<p style="text-align: center;">子育て支援策について</p> <p>(1) 出生率向上の観点から、多子世帯への経済的支援が大切だと思われるが、今後の市長の考えを伺う。</p> <p>(2) 企業と連携した子育て世代の環境整備について考えを伺う。</p>
議席	
2	
<p style="text-align: center;">塩 川 裕 紀</p> <p style="text-align: center;">（一括質問一括答弁方式）</p>	

質問 順位	質問 内 容
5	<p style="text-align: center;">農業の振興策について</p> <p>(1) 農産物売り上げ上位 10 品目をどう伸ばして行くか、またこの他にも有望視できるものがあるか伺う。</p> <p>(2) 南魚沼市広域有機センターの有効活用について</p> <p>(3) 6次産業化への具体的支援策について</p> <p>(4) 鳥獣被害とジビエの処理・販売策について</p> <p>(5) 異常少雪により渇水が懸念されるが、その対策について伺う。</p>
議席	
13	
<p style="text-align: center;">小 澤 実</p> <p style="text-align: center;">(一問一答方式)</p>	

質問 順位	質問 内 容
7	1 ごみ行政の前進を
議席	
18	
岡 村 雅 夫 (一問一答方式)	<p>魚沼市・南魚沼市・湯沢町の2市1町共同で、新ごみ処理施設を建設・運営することが合意され、建設候補地として3行政区から応募があった。おって建設場所が選定される。その前に家庭ごみ処理行政はどうあるべきか根本的に検討すべきと考える。それらを踏まえて、施設群の計画を立て、焼却炉が必要なら処理能力・燃焼方式などの計画を検討すべきと考えるが所見を伺う。</p> <p>(1) 資源循環型社会の構築に向け、この機会をどう進めようとしているか検討の経過を伺う。</p> <p>(2) 施設群の全体計画無くして用地取得はできない。計画を示せ。</p> <p>(3) 分別・資源化で減量化が可能だ。可燃ごみ処理施設(焼却炉)建設のみの計画か。</p> <p>(4) 焼却炉の燃焼方式を示し、建設費・維持管理費・運営費の検討経過を伺う。</p> <p>(5) 志布志市は「混ぜればごみ、分ければ資源」と徹底したリサイクルを進めている。 財政効果・環境効果などの学習を進め、市民の協力を得る試みが必要と考えるが所見を伺う。</p>
	<p>2 市長選不出馬にあたって</p> <p>南魚沼市はどう変わっていかなければならないと考えるか。</p>

質問 順位	質問 内 容
8	1 水道事業改革は「広域化」の視点で
議席	
17	
中 沢 俊 一	<p>市の新水道ビジョン提示から2年余り。議会の中でも様々な解釈が為されているが、施設更新費用、残債償還などの面で課題は多い。そうした中で浮上してきた県提示による2市1町の水道広域化案は、取り組み方次第で21世紀の魚野川水系の水道事業改革につながり得る。</p> <p>以下3点につき、市長見解を質す。</p> <p>(1) 新水道ビジョンによる水供給コスト面での評価</p> <p>(2) 県の指導による広域化の検証と、全国の他自治体による実証情報</p> <p>(3) P F I、D B Oなど民間活力利用への戦略</p>
(一 問 一 答 方 式)	<p>2 南魚沼市にJ I C Aの拠点誘致を</p> <p>G I Tパークがマスコミで度々紹介され、開学35年にしてようやくその真価が南魚沼市に認識され始めた国際大学だが、これだけで思考停止しては、日本の第2の開国に向けての「我が国オンリー1のお宝」ともいうべき国際大学修了生の人脈活用はおぼつかない。同大学がJ I C Aとの提携を発表した折から、J I C A事務所の誘致に積極的に取り組むべきと思うが、市長の考えを伺う。</p>

質問 順位	質問 内 容
1 2	<p style="text-align: center;">定住自立圏構想を事務処理の超広域化へつなげる考え方について</p> <p>(1) 南魚沼市スポーツ振興計画と南魚沼市いきいき市民健康づくり計画の整合性を図り、定住自立圏における超広域事務へ統合してはどうか。</p> <p>(2) 教育旅行・合宿等へ助成金を出し、温泉活用などによる観光産業の振興を超広域事務へ統合して行ってはどうか。</p> <p>(3) 水・光・大地・緑、豊かな自然を保護し、子孫に伝えていくために、環境基本計画に合わせた環境保護条例制定を超広域で行う考えは。</p>
議席	
1 6	
<p style="text-align: center;">寺 口 友 彦</p> <p style="text-align: center;">(一問一答方式)</p>	

質問 順位	質問内容
14	電力自由化は当市に何をもたらすか
議席	
26	(1) 電力自由化の目的は如何に。
若	
井	
達	
男	

若
井
達
男

(一問一答方式)

- (1) 電力自由化の目的は如何に。
- (2) 公共施設の電気料金は如何に。
- (3) 一般家庭の電気料金は安くなるか。
- (4) 当市内の融雪電気料金への影響は如何に。

質問 順位	質問 内 容
15	<p style="text-align: center;">市政の課題について</p> <p>議会初日の「4選不出馬表明」。自分も聞かせてもらいながら、一つの時間が淡々と過ぎてゆくのが感じた。南魚沼版CCRC、ITパーク、人口減少対策、清津峡取水問題、水道事業の今後、地盤沈下対策など。思うところは、いろいろとあると思うが、次期体制の取り組むべき課題について伺う。</p>
議席	
19	
<p>今 井 久 美</p> <p>(一問一答方式)</p>	

質問 順位	質問 内 容
16	南魚沼市の教育政策の到達点について
議席	
1	
永 井 拓 三 (一 問 一 答 方 式)	<p>南魚沼市の自然環境は他の地域に比べても豊かである。その証拠に、平成28年度版の学校図書社の小学4年生理科の教科書には南魚沼市の四季の様子が八海山を中心に紹介されている。科学教育は初等・中等教育全体で見ても子どもに対する知識の発達への期待ができ、理数系の学問の基礎となることから、南魚沼市は大いにこの分野の教育を推進すべき豊かな環境下にある。一方で、国内でも有数の豪雪地である南魚沼市だが、雪や風土に関する社会・文化教育等の分野においてはどうか。この分野においても他の地域にはない独自の文化や社会構造をこれまで形成してきた。つまり科学・文化の2系統の教育軸を他の地域に比べても十分に引けを取らない優れたものを持ち合わせている。これらの2系統の教育環境をいかに今後の教育政策に反映していくか。教育政策の結果が現れるのは20年近くかかることは承知した上で、今後の南魚沼市の教育政策について以下を問う。</p> <p>(1) 南魚沼市が目指す教育のゴールとは何か。</p> <p>(2) ゴールまでの道のりと達成までの時間はどのように考えているか。</p> <p>(3) 今の教育の中で雪国らしい独特なものはあるか。</p> <p>(4) これまでの教育の結果、南魚沼市の教育水準は平均に対して全国・県内でどのような位置にあるか。</p> <p>(5) 今後、どのように変化し、教育水準は推移すると予想しているか。</p>

質問 順位	質問 内 容
17	連続性のある幼保・小・中連携教育の実現を
議席	
7	
桑 原 圭 美 (一問一答方式)	<p>保育園、小学校、中学校の視察等を進めて行く中で、保育園での活動が小学校でも生きている事例が幾つか見られたが、特に我が市は地域と連携した小規模校の良い事例を多く見ることが出来る。これまでに小中一貫教育の重要性を訴えてきたが、幼保と小学校とが連携した教育を進めることも重要である。南魚沼市らしい教育を進める上で、後期教育基本計画を元に幼保と小中学校との連携の可能性を考えてみたい。</p> <p>(1) 幼保と小学校の連携の必要性についての認識</p> <p>(2) 少子化に即した幼児・児童の個々の特性を把握した一貫性のある指導の重要性</p> <p>(3) この問題に関する子育て支援課と教育委員会の連携</p> <p>(4) 保育士・教諭等の指導力の向上</p> <p>(5) 発達障害を含む全ての障がい者に対する幼保から小中への連続性のある教育の提供</p> <p>(6) 小中連携の学習支援と図書館の充実</p> <p>(7) 小中連携によるキャリア教育の推進</p>

